

第69回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

HIT035IT	高校	情報技術	宮崎県
学校名		佐土原高等学校	
研究作品タイトル		「AR百人一首アプリ かるたーる」 「デジタルで奏でる千年の言葉」	
研究者氏名 (共同の場合はグループ)		岩田 康孝、赤木 翔悟、吉井 悠翔、堀川 海唯	
指導教諭氏名		吉川 哲也	

【動機】

近年、若者の関心が薄れ、継承が危ぶまれている百人一首を最先端の情報技術を用いてブラッシュアップすることで若者にも興味をもってもらい次世代へと百人一首を伝える文化継承を目的とする。また情報技術を用いることで障がいを持つ人も平等に楽しめるアプリにすることも目標である。

【方法】

本研究では実際にアプリを開発して、感想をもらうことが一番効果的だと考えたので、「かるたーる」を開発し、その有効性を技術的側面とユーザー体験の両面から検証した。また、プラットフォームは多くの人が所持しているスマートフォンにした。

【結果】

AR技術を使い、百人一首の対戦機能と練習モードを開発。最速タイム計測や暗記度チェック機能に加えて、札の現代かな遣いと旧かな遣いの切り替えも可能とした。コンテスト、アプリ発表会やアンケートで得たフィードバックを反映し、技術とユーザ体験の両面から完成度を高めた。

【まとめ】

研究結果から、百人一首をデジタル化し、デジタル技術の良さをアプリに取り込み、ユーザーの視点に立って改良する、という「アプリ（内部）」から「ユーザー（外部）」へ発信していくという開発の流れはよい結果を残すことができた。

【展望】

AR技術を最大限に活用し、ARでなければ実現できない独自の魅力を追求することが今後の目標である。特に、聴覚に障がいのある方への対応は進んだが、視覚に障がいのある方への取り組みも主要課題として、より多くの人を楽しめる百人一首アプリを目指す。